

先進事例 紹介

女性消防隊専用詰所の設置 ～地域に愛される消防団を目指して～

熊本県 人吉市消防団

1 はじめに

人吉市は、熊本県の南部に位置し、南は鹿児島、宮崎両県に接しており、熊本、宮崎、鹿児島の3都市へ約1時間でアクセスできます。

九州山地に囲まれ、人口が約3.4万人、市域の面積は210.48km²で、うち70%を山林が占めており、市の中央部を日本三急流のひとつ「球磨川」が東西に貫流し、さらに、南北から川辺川などの多くの支流が本流である球磨川に注ぎ込んでいます。

九州の小京都と言われ、「球磨川下り」「人吉温泉」「球磨焼酎」が古くから楽しめられるとともに、九州で唯一のラフティングポイントとしても若者を中心に人気を集めています。

また、市の中心部に位置する「青井阿蘇神社」が県内の建造物では初めて国宝に指定され、またJR肥薩線「SL人吉号」が復活するなど、盛り上がりを見せています。



2 人吉市消防団の近年の取り組み

(1) 機能別消防団員

消防団員数の減少とともに団員の高齢化や就業形態の変化に伴い、地域防災力の低下が懸念されていました。団員数は、平成22年4月1日現在で、定員512人に対し

445人まで減少したことから、消防署から遠い山間地の3箇所に機能別消防団員制度を導入し、平日の日中に管轄区域内で火災が発生した際は初期消火を行う体制を整備しました。

(2) 防災サポーター「市民の命を守り隊」

平成26年4月1日には、東日本大震災や九州北部豪雨の経験から、大規模災害から命を守る手段の一つとしての早期避難を促すために、災害時の避難活動に限定した「防災サポーター制度」を導入しました。68人を任命し、地域の防災リーダーとしての役目も期待しています。

(3) 消防団協力事業所表示制度

地域の消防防災力の充実強化等の一層の推進を図るため、従業員が消防団員として相当数入団しており、従業員が消防団の活動について積極的に配慮している事業所に対し、認定証および表示証を交付しました。平成28年1月1日現在で19事業所を認定しています。業種としては、建設業、医療機関、福祉施設、製造業など多岐にわたっています。また、工事等入札参加者資格審査格付に係る評価点への加点も行っています。

(4) 「がまんだせ消防団応援の店」事業

消防団についての認知度を高め、市民全体で消防団の活動を応援していくことを目的として、平成26年8月から、消防団を応援していただける店が団員証を提示した消防団員に対してサービスを提供する事業を始めました。サービス内容は、温泉入浴料の割引やワンドリンクサービス、ポイント〇倍など様々です。団員も応援してもらえる店を出来るだけ利用するなど、地域の活性化にも寄与しています。



店頭に掲示するステッカー

3 女性消防隊専用詰所の設置

(1) 女性消防隊の主な取り組み

本市の女性消防隊は、本部付として平成14年11月に20人で発足しました。一時は14人まで減少したものの、少しずつ入団者が増え現在は19人で活動しています。

活動内容としましては、春と秋の全国火災予防週間に積載車にて火災予防を呼びかけたり、年末特別警戒に女性消防隊のみで数台に分かれ市内一円をパトロールしたりしています。また、上級救命講習を受講し、市の総合防災訓練時に市民や小学生に指導しています。そのほかに、出初式や礼式訓練への参加、各種研修会や他市町村の女性消防隊と意見交換を行うなど、先進事例を参考にしながら積極的に取り入れて活動しています。



小学生を対象にした救命講習

(2) 女性消防隊専用詰所の設置

女性消防隊にも男性団員と同じような専用の詰所があってもいいのではないかと以前から話しはありましたが、資金はなく、市や女性消防隊の後援会もないことから諦めていました。

ところが、平成26年の夏に、以前は飲食店として使用していた建物を、リフォームの必要はあるが無償で利用してもいいとのお話をいただき、早速、団長、副団長や女性消防隊で話し合いを行い、女性消防隊専用の詰所を設けることとなりました。

しかし、リフォーム費用をどうするかが大きな問題となりました。まず、女性消防隊が出初式で行進している写真を使ってクオカードを作成し、男性団員に購入をお願いしました。また地域の企業や支援者から寄付を募り、

なんとか目標額を達成することが出来ました。早速リフォームに取りかかり、約2箇月で完成し、地域の方にも参加いただき、盛大に祝賀会を行いました。



無償で貸与していただいた専用詰所

(3) 今後の取り組み

女性消防隊の詰所が完成し期待が高まるなか、平成27年12月には民間企業から女性消防隊専用の広報車を寄贈していただきました。女性消防隊専用の広報車があることで、防火啓発活動に今まで以上に取り組むことが出来るようになりました。

今後は、熊本県女性消防操法大会において悲願の優勝を目指すとともに、防火広報啓発やAEDを使った救命講習を行いながら、消防団を身近に感じてもらうとともに地域に愛される消防団員として活躍を期待しています。



寄贈いただいた女性消防隊広報車